

大政紀要

第七十卷



編下要紀政大	
令	法
卷四	第
閱校	草起
	村岡良弼

国立公文書館	
分類	
排架番号	2 A
	33-5
	① 69

69

大政紀要下編

法令四

警察

大勢一變。武臣政ヲ執ルニ及テ。國ニ守護
アリ。莊園ニ地頭アリ。各其部内ノ姦宄ヲ
按治シ。以テ人民ヲ案堵ヒシノ。之ヲ鎌倉
ニ統攝ス。總追捕使ノ稱。因テ以テ起ル。足
利織豊徳川ノ治。皆其制ニ因沿セサルハ
ナシ。乾綱ノ上ニ歸スルヤ。七百餘年ノ弊

政ヲ除キ、斯民ヲシテ、各其所ヲ得セシメ
ントス。時ニ干戈騷擾、警察ノ事、未タ完具
スルニ暇アラズ。先ツ鎮撫使ヲ置キ、以テ
人民ヲ安シ、兼テ軍務ニ參ス。又兵ヲ諸藩
ニ徵シ、三府諸港ヲ警邏セシメ、稱シテ市
中取締ト曰フ。邏卒ノ設、實ニ此ニ濫觴ス。
更ニ彈正臺ヲ設ケ、按察使ヲ置キ、刑部ニ
監察司アリ、府藩縣ニ監察課アリ、以テ風
俗ヲ肅清シ、以テ姦慝ヲ懲創ス。尋テ泰西
ノ制ニ參シ、邏卒ヲ東京ニ置キ、漸次全國

ニ布設スルニ至ル。因テ警察事務ヲ司法
省ニ統シ、邏卒ヲ警保寮ニ隸ス。後テ内務
省ニ轉屬スルニ及テ、東京ニ警視廳ヲ置
キ、其大警視ヲ敕任ニ陞セ、府縣ハ之ヲ長
官ニ委シ、其警部長ヲ奏任ニ班ス。是ヨリ
後、日ニ就リ月ニ將ニ司法警察、行政警察
ノ事、劃然分立シ、以テ今日ノ周備ヲ致ス。
乃チ事ノ警邏監察ニ關スル者ヲ採摭シ
テ、之ヲ篇ニ著ハスト云フ。

慶應三年十二月、市中取締役所ヲ京都ニ置キ、篠

市中取締役所
ヲ京都ニ置ク

山、膳所、龜山、三藩ヲ以テ。市中取締ト為シ。平戸、大洲、津和野、園部、水口、高取、六藩ヲ以テ。市中見廻ト為シ。警邏捕亡ヲ掌リ。兼テ防火ノ事ヲ管ス。更ニ加賀、土佐、薩摩、岡、四藩ニ命シテ。洛内外ヲ巡邏セシム。是ヨリ先。幕府兵ヲ諸藩ニ徵シ。輦下ノ宿衛。要口ノ屯戍ニ充テ。稱シテ京都三個月詰御固ト曰フ。是ニ至テ。其命朝廷ヨリ出ツ。因テ屯營ニ御章ノ旗幕ヲ用ヒシム。明治元年正月。徳川慶喜ノ罪ヲ聲シ。征討ノ令ヲ佈キ。先ツ東海、東山、北陸、三道ニ鎮撫使ヲ置キ。

鎮撫使ヲ諸道ニ置ク

相踵テ。大和ニ攝泉ニ。山陰ニ九州ニ。與羽越後ニ。房総常野甲駿參遠ニ。各鎮撫使。巡察使ヲ置キ。以テ軍事ヲ贊畫シ。兼テ人民ヲ安撫シ。所在ニ裁判所ヲ置キ。以テ直隸ノ土地人民ヲ統轄ス。乃チ鎮撫使。及ヒ諸藩ニ命シテ。舊幕府ノ領地ヲ檢シ。其人民ヲ安撫シ。圖籍ヲ上ラシム。二月。加賀、薩摩、阿波、三藩ニ命シテ。京都ヲ守衛セシム。車駕將ニ親征セントスルヲ以テナリ。三月。市中取締兵ヲ京都裁判所ニ屬シ。薩、長、藝、三藩ニ。大坂市中巡邏ヲ命シ。阿波藩ノ近江取締

ヲ免ス。裁判所ヲ大津ニ置クニ由ル。尋テ六浦
藩ヲ以テ。假ニ横濱取締ト為ス。大總督府ノ命
ニ出ルナリ。四月。東海道先鋒總督橋本實梁。假
ニ江戸舊町奉行石川利政。佐久間信義ヲ以テ。
市中取締ト為シ。閏四月。更ニ田安慶頼。大久保
忠寛。勝義邦ニ命シ。尋テ之ヲ罷ム。江戸府ヲ置
クヲ以テナリ。是月。關東大監察使ヲ江戸ニ置
キ。副總裁三條實美ヲシテ之ヲ兼ネシメ。又監
察司ヲ刑法官ニ置キ。知事。判事。權判事アリ。以
テ監察彈糾ノ事ヲ掌ラシム。因テ令シテ曰ク。

江戸市中取締
ヲ設ク

關東大監察使
ヲ置ク

監察司

無頼ノ徒。多ク浴中ニ潛匿スト。刑法官。京都府
及ヒ軍務官ト議シ。之ヲ搜捕シ。窩主及ヒ鄰佑
知テ告サル者ハ。連坐ノ罪ヲ科セン。因テ京都
市中取締ヲ罷ム。五月。大總督熾仁親王。鎮臺府
ヲ江戸ニ假設シ。南北市政裁判所ヲ置キ。以テ
府下ノ警邏捕亡ヲ掌ラシム。七月。江戸ヲ以テ
東京ト為シ。鎮臺ヲ廢シテ。鎮將府ヲ置キ。駿河
以東十三國ヲ管ス。乃チ輔相三條實美ヲ以テ。
鎮將ヲ兼ネシメ。鎮臺輔烏丸光徳ヲ以テ。東京
府知事ト為シ。市政裁判所ヲ府ニ係ス。是月。大

總督府假ニ關ヲ小田原ニ置キ、行旅ヲ譏察シ、
三島ノ關門ヲ廢ス、尋テ關ヲ上野三國嶺ニ置
キ、大河内輝照ニ之ヲ守ラシメ、又德川徳成ニ
信濃福島關ヲ守ラシメ、沓掛關ヲ撤ス、八月、東
京府下ヲ畫シテ六區ト為シ、兵ヲ諸藩ニ徴シ
テ巡邏ニ充ツ、乃チ匝瑳卿輔、宮崎鐵之助、岩永
市左衛門、松尾辰五郎、依田類右衛門、深尾鑑吉
ヲ以テ、東京府附屬兼市中取締隊長ト為シ、專
ラ眾庶ヲ保護ス、警察ノ事、寔ニ此ニ昉ル、九月、
宮門及ヒ諸關ノ衛兵規則ヲ定メ、九門七口警

東京府下ヲ畫
シテ六區ト為
シ取締隊長ヲ
設ク

東京皇居ニ防
火兵二百人ヲ
置ク

衛ノ諸藩ニ頒テ、薩長彦根肥前四藩ニ命シテ、
洛内外ヲ警衛ス、十月、鎮將府、福岡、高松ニ藩ニ
命シ、防火兵各百人ヲ置キ、以テ東京皇居ヲ守
ラシム、明年八月、之ヲ東京府ニ隸ス、是月、刑法
官ヲ東京ニ假設シ、監察司ニ少監察ヲ置ク、又
東京府ニ令シテ、軍務官ト謀リ、益府下ノ警邏
ヲ嚴ニセシム、車駕東京ニ在ルヲ以テナリ、十
二月、二毛諸藩ニ命シテ、吏ヲ三陸、兩羽、磐城、岩
代ニ遣シ、久保田、弘前等ノ十一藩ト、俱ニ没収
ノ地ヲ分管セシメ、越後地方ハ、之ヲ其府ニ屬

シ。以テ亂餘ノ窮民ヲ安撫セシム。

二年正月、熊水藩ノ武總取締ヲ免シ、箱館府兵ヲ解ク。東北稍平クヲ以テナリ。是月、諸道ノ關門ヲ撤ス。蓋シ四海一家ノ宏謨ヲ表スルナリ。因テ府藩縣ニ令シ、逃籍人ヲ檢査シテ復帰セシム。且ツ下情抑塞、遂ニ逋逃ニ至ルノ弊ナカラシム。二月、薩長土三藩、奏シテ九門ヲ警衛セント請フ。聽サス。兵ヲ其邨ニ置キ、以テ不虞ニ備ヘシメ。酒井忠邦ニ大宮御所、真田幸民ニ中宮御所、松平信正ニ桂宮、本多忠直ニ靜寛院宮ノ

關門ヲ撤ス

東京市中取締兵ヲ軍務官ニ屬シ觸頭ヲ定ム

警衛ヲ命ス。尋テ車駕將ニ東幸セントスルヲ以テ、肥後以下、二十二藩ノ兵ヲ徵シ、京師ヲ留守セシメ。薩長土三藩ノ警備ヲ免シ、在京ノ諸藩兵ヲ撤ス。又紀伊藩ヲシテ、大坂ヲ警衛セシメ。越前諸藩ノ敷賀港戍衛ヲ免ス。是月、東京市中取締諸藩兵ヲ軍務官ニ屬シ、一橋茂榮、田安慶頼、松平乘秩、堀田正頌、松平忠敬等、二十人ヲ以テ觸頭即營長ト為ス。三月、戶籍改正ヲ以テ、東京府下ニ無籍者ノ留宿ヲ禁ス。乃チ開墾局ヲ本府ニ置キ、民ノ産ナキ者ヲ、下總小金原ニ移

シテ、其地ヲ開墾セシム。五月ニ至リ、局ヲ民政部
官ニ移シ、東京府判事北島秀朝ヲ以テ、開墾局
知事ト為ス。尋テ府藩縣ニ申令シテ、戸籍ヲ釐
正シ、逃亡シ復帰セシム。乃チ久離、牒外ノ稱ヲ
停メ、其放逸無頼、及ヒ亡命者ハ、管聽ニ稟告セ
シム。又東京諸藩郡ニ令シテ、辻番所即邏ヲ復
ヒシメ、尋テ郭門通行條規ヲ定ム。是月、徳川家
達ノ舊臣別手組八十人ヲ、軍務官ニ隸ス。舊ニ
仍テ外國人ノ護衛ニ充ツ。三年七月ニ及テ、之
ヲ東京府ニ隸シ。五年八月、其護衛ヲ罷メ、別手

外国人護衛兵

岩代巡察使ヲ
置ク

組ノ稱ヲ廢ス。邏卒ヲ置クニ由テナリ。四月、軍
務官ニ命シテ、東京、六合川ノ間ヲ巡警セシメ、
内外人ノ不虞ニ備フ。蓋シ諸侯相踵テ東上シ、
倭從屢粗暴ヲ外人ニ加フルヲ以テナリ。五月、
岩代巡察使ヲ置キ、四條隆平ヲ以テ長官ト為
シ。尋テ三陸両羽磐城ニ置ク。因テ之ニ諭シテ
曰ク、民政ハ經國ノ基本ニシテ、大政ノ隆替、實
ニ此ニ繫ル。一新以來、億兆ヲ綏撫シ、各其所ヲ
得セシメント欲ス。然ルニ陸前岩代ノ地ノ如
キ、亂離ノ餘、民心危疑ス。蓋シ至仁ノ澤、未ダ洽

カラサルニ由ル。今巡察使ヲ置ク。宜ク地方有
 司ト議シ。カラ撫字ニ盡シ。能ク民心ヲ得テ。以
 テ上下ノ情ヲ通セヨト。後ニ按察使ヲ置クニ
 及テ。之ニ命スル亦此ノ如シ。是月。彈正臺ヲ建
 ツ。尹一人。弼一人。大忠。少忠。大疏。少疏。各二人。巡
 察。彈正十人ヲ置キ。辨事門脇重綾。軍務官判事
 吉井德春ヲ以テ。太忠ト為シ。官府城市ヲ巡察
 セシム。因テ刑法官ノ監察司ヲ廢ス。前後。知司
 事ニ任スル者十餘人。玉手弘道。松岡利紀。師岡
 正胤。宮原積。岸良兼。權田直助。藤村紫朗。片岡

彈正臺ヲ建テ
 監察司ヲ廢ス

利和等ナリ。六月。京都府言ス。部内夜盜多ク。衆
 庶之ヲ苦シム。知府事以下。微行巡邏シ。以テ之
 ヲ勦絶セシト。七月。彈正臺ノ官位職制ヲ定ム。
 曰ク。尹。大弼。少弼。法ヲ執リ。律ヲ守リ。内外ノ非
 違ヲ糾彈スルヲ掌リ。正權。大少忠。宮中府中ヲ
 巡察シ。非違ヲ糾彈シ。大疏。少疏。文案ヲ勘署シ。
 稽夫ヲ檢出シ。大少巡察。巡察屬。府藩縣ヲ巡察
 シ。非違ヲ糾彈スルヲ掌ル。乃チ九條道孝ヲ以
 テ。彈正尹ト為シ。支署ヲ京都ニ置ク。初ノ臺ヲ
 建ル。宮中ニ在リ。是月。八代洲河岸府内藩邸ニ

按察使ヲ白石ニ置ク

越後按察使

彈例ヲ定ム

移シ、尋テ大名小路三條實美郎ニ移シ、後ニ外
 櫻田彦根藩郎ニ移スト云フ。更ニ按察使ヲ置
 キ、長官、次官、判官、主典アリ。以テ府藩縣ノ政績
 ヲ按察ス。乃チ府ヲ白石ニ建テ、陸羽磐城ノ六
 國ヲ管シ、陸軍少將坊城俊章ヲ以テ、按察次官
 ヲ兼ネシメ、又侍從三條西公允ヲ以テ、水原縣
 知事ト為シ、越後按察使次官ヲ兼ネシム。十一
 月ニ至リ、藩縣ノ情狀、民政ノ得失ヲ察シ、官吏
 ノ非違ヲ糾シ、及ヒ不實ノ事アル、所管藩兵ヲ
 徵シテ、便宜處分スルヲ許ス。九月、彈正臺ノ彈

例ヲ定ム。其畧ニ曰ク、在京ノ巡察ハ、坊令ヲ從
 ヘテ巡視シ、犯者アレハ、巡邏兵ニ命シテ縛シ、
 先ツ勘問シテ、其所司ニ付ス。巡察ハ、便地ヲ點
 定シテ、伊注會シ、坊令ヲ從ヘテ之ニ臨ミ、官
 吏ノ枉害ヲ受ケ、若クハ孝順義節ノ者ヲ廉訪
 ス。非常巡察ヲ藩縣ニ發シテ、政事ヲ覆問シ、非
 違ヲ糾彈スルハ、一ニ詔使ノ例ニ準ス。餘ハ糾
 治部ニ在リ。十一月、東京府令シテ、各所ニ柵門
 ヲ設ケ、酉刻ヲ以テ之ヲ閉チ、巡邏兵ヲ増シ、嚴
 ニ盜賊ヲ緝捕セシメ、尋テ兵部省管スル所ノ、

市中取締兵ヲ
東京府ニ屬シ
警備規則ヲ定

東京^六大區ヲ分
テ四十七小區
ト為ス

市中取締諸藩兵ヲ東京府ニ屬シ。併セテ其約
束諦令賞罰ヲ掌ラシム。乃チ其警備規則ヲ定
メテ曰ク。市中警兵ハ。奸宄盜竊ヲ闢防シ。市民
ヲ安堵シ。詞訟ニ干與セス。凡ソ奸徒ヲ追捕ス
ル。口供ヲ并セテ府ニ致セ。若シ軍人ニ係ル者
ハ。糾問局ニ付ス。其邏所ヲ置カント欲セハ。先
ツ坊令ト謀リ。議定テ府ニ申シ。一切經費ハ。各
藩目^ラ之ヲ辨ス。因テ府下六大區ヲ各テ。四十
七小區ト為シ。每小區ニ。兵半小隊ヲ置ク。是月。
逓部司ヲ刑部ニ置ク。十二月。特ニ越後按察使

ニ令シテ。藩縣ノ政績ヲ察シ。地方官ト謀リ。人
民ヲ安撫セシム。去年。兵馬ノ衝ニ當リ。且ツ縣
官屢交替シ。下民未タ其堵ニ安セサルヲ以テ
ナリ。

三年正月。兵部省ヲシテ。京都警備諸藩兵ヲ管セ
シメ。尋テ本府ニ隸ス。京都兵部省ヲ廢スルニ
由ル。三月。東京諸門衛兵規律十四條ヲ定メ。外
櫻田等ノ十門。印信ヲ帶サル者ハ。戌牌以後。經
過ヲ許サス。四月。彈正臺出張所ヲ大坂ニ置キ。
巡察出張所ト稱シ。大少巡察ニ權官ヲ置キ。巡

彈說ヲ臺員ニ
頒ツ

大政綱要

察手附ヲ廢シ。更ニ被官ヲ設ク。五月。是ヨリ先。
彈例ヲ停メ。此ニ至リ。改メテ八條ト為ス。因テ
臺ニ令シテ。既往ノ過失ハ。不問ニ措カシム。乃チ
彈說ヲ頒チ。以テ守ル所ヲ知ラシム。曰ク。天下
法律アリ。犯ス者ヲ非違ト為ス。民ノ罪過ニ陷
ランヲ憂ヘ。乃チ彈正ノ官ヲ設ケ。非法違律ヲ
糾シ。其過ヲ改メ。其罪ヲ免レシメンヲ欲ス。過
犯已ニ大ナル者。即チ罪人ナリ。其罪ヲ律シテ。
之ヲ斷ヒサルヲ得ス。是ニ於テヤ。刑部ノ職アリ。
推考鞫問。以テ其典刑ヲ明ニス。二官。各其職

ヲ盡シテ。以テ風俗ヲ肅清シ。姦慝ヲ懲創ス。是
レ彈正刑部ノ別アル所以ナリ。彈正ノ職。清肅
ヲ要ス。臺員ノ臨ム所。人ヲシテ肅然戒慎セシ
ム可シ。其要。嚴ナル可ク。刻ナル可ラス。寬猛宜
ヲ得テ。善行非違ヲ訪察スルニ在リ。抑事瑣末
ヲ求ムル。其害ヤ苛察。簡易ヲ主トスル。其弊ヤ
疎慢。故ニ務メテ其中ヲ執ルヲ要ス。今巡察ヲ
四方ニ派遣スルハ。政治ノ得失ヲ察シ。上下ノ
情ヲ通スルニ在リ。求テ人ノ非ヲ發キ。人ノ奸
ヲ擿シ。天下ニ罪人多カラシムルハ。臺ノ本色

ニ非サルナリト。六月。逋部司ニ大少令史ヲ置
キ。越後按察使ヲ廢ス。七月。若松縣旁近ノ諸藩
ニ令シ。兵ヲ出シテ本縣ヲ護衛セシム。亂後。人
心未タ全ク鎮定ニ就カサルヲ以テナリ。八月。
販賣鴉片律。及ヒ生鴉片取扱規則ヲ頒布シ。又
各港在寓ノ清國人ニ告諭シテ曰ク。外務省。上
諭ヲ奉ス。前ニ各港府縣ニ於テ。在寓清國人等
ニ曉示シ。鴉片ヲ藏貯スルヲ得サラシム。曰テ
彼我人民ノ之ヲ賣買スル者。已ニ法ニ據テ懲
治セリ。夫レ鴉片ノ清國ニ入りシヨリ。毒ヲ流

鴉片ノ禁ヲ申
ス

シ民ヲ害シ。以テ今日ノ甚シキニ至ル。是之ヲ
思ハサル可ラス。是ヲ以テ。政府新ニ防害ノ律
例ヲ定メ。各港府縣ニ頒示シ。在寓清民ニ申諭
ス。嗣後。倘シ毫モ法ヲ犯スアレハ。必罰シテ以
テ惡敵ヲ熄ルニ在リ。清民素烟癮アリ。斯須モ
其管筴ヲ置キ難キ者。固ヨリ言ヲ須タス。即チ
量淺キ者モ。亦嚴ニ之ヲ禁斷ス。凡ソ此ノ如キ
者ハ。來港シテ營生スルヲ準サス。其或ハ自ラ
能ク吸喫ヲ戒斷シ。以テ禁令ニ遵フ者ハ可ナ
リ。其能ハサル者ハ。隨即此ヲ去テ郷ニ回レ。新

藩制ヲ釐正シ
テ監察課ヲ設
ク

按察使ヲ廢ス

諭律例到ルノ後、仍ホ潛匿シテ大禁ヲ犯ス者
ヲ查出セハ、原住新來ニ論ナク、立刻ニ律ヲ按
シテ處治セント。九月、藩制ヲ釐革シ、分テ大中
小三等ト為シ、大屬以下、課ヲ分テ事ヲ執リ、監
察與リテ一ニ居ル。乃チ府藩縣ニ令シテ、盜難
表ヲ製シ、月次民部省ニ致サシム。蓋シ其多寡
ニ照シ、警吏捕手ヲ置キ、以テ民政ノ基本ヲ立
ントスルナリ。明年四月ニ至テ、諸縣捕亡吏ノ
ノ準則ヲ定メ、管地十萬石ニ、經費金千二百兩
ト為ス。是月、按察使ヲ廢シ、次官坊城俊章ヲ以

テ、山形縣知事ト為シ、仍ホ按察事務ヲ兼攝セ
シム。十一月、醉酗暴行ヲ戒飭ス。當時粗暴ノ徒、
大言縱行、以テ自ヲ是ト為シ、亂醉氣ヲ使ヒ、街
上ニ放歌シ、動モスレハ、劔刃ヲ挺キ、路人ヲ恐
嚇シ、獸畜ヲ斬斫シ、其狂悖言ヲ可ラス。大ニ衆
庶保護ノ盛意ニ悖ルヲ以テナリ。他年廢刀ノ
令下ル。文明至治ノ結果ト謂フト雖モ、其原因
スル所、蓋シ此ニ在ルカ。十二月、三府及ヒ開港
場警備規則十八款ヲ頒ツ。藩縣モ亦此條款ニ
准シ、風土人情ノ宜ヲ酌シ、警備周到、務テ奸濫

ヲ未發ニ防カシメ、其行火、竊盜、人命、及ヒ偽造
 寶貨等ヲ告ル者ノ賞格ヲ定ム。又文武藝術ヲ
 以テ家塾ヲ開ク者ハ、必ス地方官ノ許可ヲ受
 ケ、其生徒、管廳ノ保書ナキハ、寄寓ヲ許サス。是
 月、東京府奏シテ曰ク、府下警邏ノ事、戊辰八月、
 鎮將府特ニ之ヲ本府ニ命シ、諸藩兵ヲ各區ニ
 置キ、以テ警戍ニ充テ、兵部之ヲ管シ、府之ヲ宰
 ス。去年十月、盜竊橫行、事上聽ニ達シ、特ニ命シ
 テ、兵部ト議シ、警備益嚴ナラシム、時ニ斷獄下
 調所ヲ以テ、假ニ府兵局ニ擬シ、其事ヲ專當ス。

東京府警邏
 張ノ議ヲ上ル

頃者、諸藩兵制ヲ改革スルノ時、従前ノ制ヲ一
 變セサレハ、以テ永久ヲ保シ難シ。因テ本府ニ
 貫スル卒族ヲ編シテ、西洋邏卒ノ制ニ倣ハン
 ト議ス。會英人暗戕ノ事起ル、實ニ警備至ラサ
 ルノ致ス所、殆ト國辱ヲ招ントス。因テ人員ヲ
 増シ、柵門ヲ増設シ、以テ警備ヲ嚴ニシ。奸宄ノ
 徒、跡ヲ府下ニ絶ツニ至ラシメント欲ス。抑警
 備ノ設タル、民ヲ保スルニ外ナラサレハ、其経
 費ノ如キ、宜ク之ヲ府民ニ課スヘシ。然リト雖
 モ、兵馬ノ餘、民未タ生ヲ聊セス。姑ク國庫ニ仰

キ。漸ヲ以テ之ヲ行ント。乃チ別案ヲ具ス。其案ニ曰ク。府下ヲ分テ八大區ト為シ。大區ト為シ。大區ヲ畫シテ。各十八小區ト為シ。大區ニ。長一人、副長一人、組頭十八人、小頭五十四人、番卒四百八十六人、使丁五人、馬丁二人、馬二頭。小區ニ。組頭一人、小頭三人、番卒二十七人。合セテ四千五百三十人。十六馬ヲ置キ。經費金四十四万六千九百八十五兩ヲ要ス。批シテ姑ク一千百三十四人ヲ置キ。漸ヲ以テ其數ニ充シム。

四年正月。彈正大少疏ニ權官ヲ置ク。二月。京都大

坂ノ出張巡察所ヲ改メテ。彈正臺出張所ト稱シ。本廳ヲ大坂ニ置キ。支廳ヲ京都ニ置ク。是月。邏卒六十人ヲ兵庫ニ置キ。以テ内外人ノ非違ヲ糾察ス。三月。禁門警衛ヲ兵部省ニ屬シ。諸門衛兵ノ規律ヲ定ム。五月。東京府下。無燭夜行ノ禁ヲ解ク。邏卒ヲ置クヲ以テナリ。是月。浦和縣奏シテ。縣兵ヲ置ントヲ請フ。允サス。旁近ノ諸藩ニ令シテ。兵ヲ假シ。以テ捕亡ノ事ヲ兼ネシム。品川、宮谷、日光、五條、濱田、奈良諸縣。前後相踵テ稟請ス。殊批一ニ浦和縣ニ同シ。七月。刑部、彈

太政官ニ監部
課ヲ置ク

大政紀要
正ヲ廢シテ、司法省ヲ置キ、其管理ノ事務ヲ本
省ニ併セ、更ニ監部課ヲ太政官ニ置キ、以テ目
目ノ官ト為シ、内外官吏ノ、奸詐急情ヲ監禁密
奏ス、史官、主記、臨時命ヲ受ケテ之ヲ兼ス、故ニ
常員ナシ、八月、地方ニ令シ、士族ヲ戒飭シテ、鄉
曲ニ武斷スルノ陋習ヲ除カシム、舊幕ノ律ニ、
暴言不敬ヲ士卒ニ加フル者ハ、手刃シテ罪ナ
キノ條ヲ載ス、其他知ル可シ、此令アル所以ナ
リ、是月、兵一千人ヲ鹿兒島縣ニ徵ス、將ニ東京
府下ノ澹固卒ニ充ントスルナリ、九月、西京宮

邏卒三千人ヲ
東京ニ置ク

門ノ守衛ヲ本府ニ屬シ、皇城防火ノ事ヲ、東京
府ニ屬シ、従前縣兵ヲ徵シ、兵部之ヲ管スルノ
制ヲ改ム、十月、邏卒三千人ヲ東京府ニ置ク、乃
チ府兵局ヲ改メテ、取締掛ト稱シ、府下ヲ畫シ
テ六大區ト為シ、每區ニ取締出張所ヲ設ケ、總
長一人、差添役四人ヲ置キ、典事、權典事、大屬ヲ
以テ、其事ヲ兼ネシメ、又大區ヲ分テ、各十六小
區ト為シ、每區ニ屯所ヲ設ケ、組頭一人、組子三
十人ヲ置キ、組子ノ才幹アル者、三人ヲ擢テ、小
頭ト為シ、各取締所ニ傳信機ヲ架シ、互ニ緩急

遷卒ヲ神奈縣ニ置ク

ヲ通ス。曰テ取締組大体法則。及ヒ取締規則。取締組自守規則ヲ頒テ。服制帽章ヲ定ム。府下警察ノ事。是ニ於テ苟完ス。曰テ築地外國人居留地關門ノ衛兵ヲ撤ス。十一月。遷卒ヲ神奈縣ニ設ケ。總長。權總長。檢官。權檢官。區長。權區長ヲ置キ。以テ警邏ヲ掌ル。十二月。新潟縣ノ戍兵ヲ廢シ。更ニ遷卒ヲ置ク。是月。兵部省ノ議ヲ可トシ。親兵一大隊ヲ皇城内ニ置キ。宮門ヲ警衛セシメ。宮門警衛規則ヲ定メ。諸縣ノ衛兵ヲ撤ス。五年正月。東京府。取締出張所ヲ改メテ。大區役所ト

東京府遷卒増員ノ議ヲ上ル

稱ス。三月。金十方圓ヲ東京府ニ付シ。取締組増員ノ費ニ充ツ。東京府ノ疏ニ曰ク。去冬。取締組三千人ヲ置キ。以テ府下ノ警邏ニ充ツ。然ルニ府下十八万三千八百四十五戸。八十八万二千六百三十二口。之ヲ乘除スルニ。凡ソ百二十戸ニ百九十三口ニシテ。取締組一人ニ相當ル。頃者。更ニ旁近諸驛ヲ加ヘシヲ以テ。警察ノ事。遺漏ナシトセス。請フ更ニ千人ヲ増サハ。始テ其周到ヲ得ント。是レ其請ヲ允スナリ。乃チ遷卒總長。權總長。檢官。權檢官。區長。權區長ヲ置キ。取締

石田英吉ヲ香港ニ遣シテ
西邏卒ノ制ヲ視セシム

組ヲ改メテ、邏卒ト稱シ。東京府七等出仕水野元靖、安藤則命、典事末原讓、川路利良、田邊良顯、坂本純熙ヲ以テ、總長ト為ス。其職名官等、一ニ神奈縣ニ倣フ。四月、邏卒ヲ兵庫愛知二縣ニ置ク。五月、神奈川縣七等出仕石田英吉ヲ、香港ニ遣シテ、歐洲邏卒ノ制ヲ講究セシム。十月ヲ以テ復命シ、其制規ヲ錄上ス。後ニ警保察職務章程、及ヒ東京番人規則ヲ創定スル。此書實ニ參考ニ資スト云フ。六月、商人ノ銃砲彈藥ヲ、外國人ニ購賣販鬻スル者ハ、其授受、必ス開港場管廳ヲ

東京邏卒ヲ司法省ニ隸シ警保察ヲ置ク

經由セシム。九月ニ至リ、私ニ販賣スルヲ禁シ、犯ス者ハ、其物ヲ没シ、罰金五十錢ヲ科ス。七月、邏卒ヲ廣島縣ニ設ク。諸縣亦相繼テ之ヲ置ク。後一々書セス。八月、司法省職制ヲ改メ、檢事檢部ヲ置キ、良ヲ扶ケ惡ヲ除キ、以テ人民ノ權利ヲ保護ス。語ハ糾治部ニ在リ、尋テ東京府邏卒ヲ司法省ニ屬ス。乃チ警保察ヲ司法省ニ置キ、全國ノ警察保護ノ事ヲ總提スル所ト為ス。正權大少警視、大少警部アリ。七等ヨリ通降シテ十四等ニ至ル。餘ハ諸察ニ同シ。乃チ司法大丞

邏卒ヲ改メテ
巡查ト稱ス

兼大檢事島本仲道ヲ以テ、警保頭ヲ兼ネシメ、
川路利良、坂本純熙、安藤則命ヲ以テ、警保助ト
為シ、邏卒ヲシテ逮部ヲ兼ネシム。十月、邏卒ヲ
改メテ巡查ト為シ、等外一等ヨリ三等ニ準ス。
乃チ東京各大區役所ヲ改メテ、大區警視出張
所ト稱シ、每出張所ニ、少警視一人、大少警部五
人、屬二人、等外吏四人、驅使四人、馬丁一人、馬一
頭ヲ置ク。十一月、違式誹違條例五十六條ヲ、東
京府下ニ頒行ス。是月、東京府、刑餘無籍ノ徒ヲ
以テ、防火夫ニ試用ス。

違式誹違條例
ヲ行フ

番人ヲ東京ニ
置ク

六年一月、番人ヲ東京第一大區ニ置キ、巡查ニ之
ヲ監ヒシム。因テ番人規則六十條ヲ頒ツ、尋テ
第二大區ニ置キ、七月ニ至テ、府下ニ全及ス。是
月、銃獵規則ヲ定ム。二月、府縣ニ令シテ、邏卒ノ
規則方法ハ、警保寮ノ批可ヲ受ケシム。四月、令
ス。凡遺失物ヲ得ル者ハ、即時ニ所在ノ檢事ニ
致セト。蓋シ盜犯追跡ノ用ニ供スルナリ。七年
十二月ニ至テ、其處分ヲ警視廳ニ屬ス。五月、皇
居四近、失火、及ヒ警急號砲ノ制ヲ申令ス。各區
望火樓、鳴鐘傳報ノ制ヲ設ク。是月、裁判所ノ設

アル府縣ハ、捕亡ノ稱ヲ廢シ、捕亡費金ノ半ヲ分テ、裁判所捕亡費ニ充テ、其半ヲ地方警視費ト為ス。六月、地方番人ノ、邏卒、捕亡吏、取締組等ノ名稱ヲ冒スヲ禁ス。七年四月ニ迄テ、便宜舊稱ヲ用ルヲ許ス。七月、警視寮ニ、警視警部ノ直所ヲ置キ、之ヲ警視局ト稱ス。東京府下、各小區ノ本營ヲ、邏卒屯所ト稱シ、分營ヲ邏卒分配所ト稱シ。各地方違式註違條例九十條ヲ頒布ス。十月、東京府下ニ非番番人ヲ設ケ、人民私費ヲ納レ、私家ノ護衛ヲ請フ者ハ之ヲ許ス。後テ十

防火事務ヲ警保寮ニ屬ス

警保寮ヲ内務省ニ屬シ、東京警視廳ヲ置ク

四年ニ至リ、其費用ヲ定メテ、一月十三圓、一日四十五錢ヲ納レシム。十一月、警保頭島本仲道ヲ罷メ、司法大丞兼大檢事河野敏鎌ヲ以テ、警保頭ヲ兼ネシム。十二月、東京府管スル所ノ、府下防火事務ヲ警保寮ニ屬ス。明年一月ニ至テ、消防章程成ル。

七年一月、太政官代ニ防火丁百二十八人ヲ置ク。司法省邏卒二千人ヲ各縣ニ募ル。是月、警保寮ヲ内務省ニ屬ス。目テ東京警視廳ヲ置キ、内務省ニ屬シ、其官等ヲ定メ、警視長、大少警視、大中

警視廳職制ヲ
定メ行政警察
司法警察ヲ分ツ

少警部ヲ置キ、警視、警部、各權官アリ。警視長ヲ三等官ト為シ、大警視ヲ五等官ト為シ、以下遞降シテ十四等ニ至ル。乃チ警保助、川路利良ヲ以テ、大警視ト為シ、八月ニ至テ、警視長ニ任ス。又檢事職制章程、及ヒ司法警察規則ヲ定メ、警視及ヒ府縣官吏ヲ以テ、司法警察事務ヲ兼管シ、檢事ニ之ヲ總攝セシメ、邏卒屯所、及ヒ邏卒分配所ヲ改メテ、巡查屯所、巡查分屯所ト稱シ、巡查ヲ警視廳ニ置キ、等外一等ヨリ四等ニ準シ、東京番人ヲ廢ス、二月、警視廳職制章程、及ヒ

規則ヲ定ム、凡ソ十一章、一百八條、其要ニ曰ク、警視長ハ、東京警保事務ヲ總督シ、大警視以下ヲ管ス、事全國ニ涉ルハ、太政官ノ命ヲ受ケ、省使府長官ノ囑アレハ、其權内ノ警察ヲ行ヒ、區戶長及ヒ人民ヲ指使スルヲ得、警視ハ、警部巡查ヲ總攝シ、廳務ヲ議判ス、警部ハ、事ヲ警視ニ承ケ、大區出張所ニ派在シ、事務ヲ攝行ス、巡查ハ、各部ニ分派シ、事ヲ警部ニ承ケ、部内ヲ巡邏查察ス、凡ソ警保ノ職ハ、兇害ヲ豫防シ、安寧ヲ保スルニ在リ、之ヲ行政警察ト曰ヒ、權利ヲ保

シ。風俗ヲ正シ。國事犯罪ヲ未發ニ警防スルヲ
務トス。其豫防ノカ及ハスシテ。犯法者ヲ撿査
逮捕スルハ。司法警察ノ職務ト為ス。故ニ行政
警察官吏。搜捕ヲ行フ時ハ。檢事章程。及ヒ司法
警察規則ニ照ス可シト。是月。東京府下ノ防火
事務ヲ。警視廳ニ屬シ。費額ヲ定メテ。歳ニ三万
百六十一圓ト為ス。三月。行政司法ノ警察事務
ヲ。地方官ニ屬スルヲ以テ。去年。裁判所地方廳
ニ分付スル所ノ。捕亡費ノ全額ヲ府縣ニ付ス。
目テ府縣ニ令シテ。捕亡吏。邏卒。番人等ノ給俸。

及ヒ官費民費ノ別ヲ查核具上セシム。又東京
巡查ヲ定メテ。五千四百人ト為シ。第一大區ニ
千三十人。第二大區ニ九百人。第三大區ニ八百
四十人。第四大區ニ八百六十人。第五大區ニ九
百二十人。第六大區ニ八百五十人ヲ分置シ。一
等巡查ニ佩劔ヲ許ス。八月。東京各大區警視出
張所ニ電信機ヲ短シ。以テ警急相報ス。目テ府
下小區ノ巡查屯所ヲ減シ。更ニ衝要ノ地二十
八所ニ置ク。是月。神奈川縣ニ海上邏卒二十人
ヲ置キ。内外ノ船舶ヲ偵邏セシム。九月。飛信通

神奈川縣ニ海上
邏卒ヲ設ク

大政紀要

送規則ヲ定メ。各廳ノ變報ニ備フ。十月。假ニ司法
法警察事務ヲ。警視及ヒ地方官ニ屬ス。司法省
ノ議ニ從フナリ。曰テ警視廳ノ官制。及ヒ等級
ヲ更正シ。警視長ヲ廢シテ。正權中警視ヲ増置
ス。大警視ヲ三等官ト為シ。以下遞降シテ六等
官ニ至ル。少警視以下。故ノ如シ。乃チ警視長川
路利良ヲ以テ。大警視ト為シ。命ヲ廳ニ下ス。一
ニ諸省ニ準ス。是月。開拓使。邏卒長、檢官、部長ノ
官等ヲ定ム。十一月。警視廳ニ。警備編制局ヲ置
キ。練兵規則ヲ定メ。巡查ヲ舉ケテ隊伍ニ編ス。

十二月。地方官ニ令シ。本年ノ警察費目。及ヒ其
官吏ノ數ヲ録シ。明年二月二十日ヲ限リ。内務
省ニ上ラシム。

行政警察規則
ヲ定ム

八年一月四日。警視廳。府下ノ消防組ヲ鍛冶橋陸
軍練場ニ會シ。防火技ヲ演習セシメ。歲以テ
例ト為ス。三月。行政警察規則ヲ創定シ。之ヲ府
縣ニ頒テ。捕亡吏、取締組、番人等ノ稱ヲ廢シ。概
シテ邏卒ト稱ス。規則凡テ三章五十四條。其第
一章ヲ警察職務ト為シ。第二章ヲ邏卒勤方ト
為シ。第三章ヲ邏卒心得ト為ス。其要ニ曰ク。行

警部ヲ府縣置
警察費ヲ定ム

政警察ハ、兇害ヲ防キ、安寧ヲ保ツニ在リ。府縣
長官之ヲ總提シ、大属以下ヲ分テ警察掛ト為
シ、各所ニ派在シ、邏卒ヲ指揮シ、巡邏查察セシ
ム。四月、東京六區ノ警視出張所ヲ改メテ、警視
分廳ト稱シ、巡查屯所ヲ支署ト為ス。六月、陸軍
省ノ私有銃砲彈藥管理ノ事務ヲ、内務省ニ属
ス。十二月ニ至リ、私藏ノ禁ヲ申ネ、明年二月ヲ
限リ、管廳ニ申シテ、檢印ヲ受ケシム。七月、東京
府、花街ノ三業娼妓、貸座敷、引手、茶屋、取締會所ヲ設ケ、規
則ヲ假定ス。十月、警部ヲ府縣ニ置キ、邏卒ヲ改

メテ巡查ト稱ス、一等警部、九等官ニ相當シ。遞
降シテ十六等ニ至ル。邏卒ノ等級給俸、一ニ東
京ニ準ス。目テ府縣警察費ヲ定メテ、六十万圓
ト為ス。向ニ地方官會議ヲ東京ニ開キ、議決ス
ル所ナリ。是月、東京警視病院ヲ、第五分廳内ニ
假設ス。十二月、巡查懲罰例、警察出張所設置方
、巡查召募規則、及ヒ檢査法、名簿式、月報送致手
續、警部巡查給與規則等ヲ定ム。其懲罰ノ法々
ル、規則ニ違ヒ、怠慢失誤スル者ハ、罰スルニ苦
役ヲ以テス。苦役ハ、下番ノ日、仍ホ其務ニ服ス、

一日ニ始リ、三十日ニ終ル、其贖ヲ聽ス可キハ、一日ヲ十錢ニ折ス。

九年一月、賣淫ノ懲罰ヲ、警視廳及ヒ地方官ニ屬シ、律ノ銜賣私娼條ヲ刪ル。二月、開拓使、警察吏ノ官名等級ヲ更メ、警部長ヲ八等官ト為シ、一等警部ヲ九等ト為シ、適降シテ十四等ニ至ル。警部補以下ハ、警視廳ニ同シ。三月、佩刀ヲ禁ス。但大禮服ヲ服シ、及ヒ軍人警察吏ノ制服ヲ服スル者ハ、此限ニ在ラス。犯ス者ハ、其刀ヲ没ス。四月、警保寮ヲ廢シテ、警保局ト為ス。是月、司法

佩刀ヲ禁ス

警保寮ヲ廢シテ警保局ト為

シ司法警察規則ヲ設ク

警察規則ヲ廢シテ、假規則ヲ設ク。蓋シ去年府縣長官ヲ會シ、警察ノ事ヲ議セシム。彼此風土ヲ異ニシ。悉ク施行シ難キ者アリ。故ニ姑ク假規則ヲ頒チ、之ヲ斟酌施行セシメ、將ニ大成ナル所アラントスルナリ。五月、琉球藩ノ警察ヲ内務省ニ屬シ、本地駐在ノ少丞水梨精一郎ヲシテ、其事ヲ行ハシム。十一月、東京府下ニ、消防別組七隊ヲ設ケ、警視分署ニ隸ス。

十年一月、警視廳、射的演習所ヲ向岡ニ設ケ、巡查ヲシテ銃技ヲ習ハシム。十一日、警視廳ヲ廢シ

警視廳ヲ廢シテ警視局ヲ置ク

テ。其事ヲ内務省ニ属シ、警視局ヲ置キ、更ニ大
警視以下ノ官ヲ設ケ、全國ノ警察事務ヲ總提
シ。兼テ東京警察ヲ管セシメ、府縣ノ警部長警
部補ヲ廢シテ、警部十等ヲ置ク。一等警部ヲ八
等ト為シ、遞降シテ十七等ニ至ル。開拓使亦之
ニ準ス、乃チ各地方ノ警察出張所ヲ改メテ、警
察署ト稱シ、屯所ヲ分署ト稱シ、並ニ地名ヲ以
テ之ニ冠ス。尋テ東京ニ河海警察ヲ設ケ、出張
所ヲ。靈巖島、深川、芝品川ノ四所ニ假設シ。費額
ヲ定メテ、歳ニ一万五千圓ト為ス。後チ改メテ

東京ニ水上警
察ヲ設ク

巡查ヲ募リ旅
團ヲ編成ス

水上警察ト稱シ。全國ノ海港非常警備方ヲ假
定ス。二月、西郷隆盛叛ス、乃チ征討ノ令ヲ佈キ、
尋テ巡查ヲ東北各縣ニ募リ、東京府下ノ警備
ニ充ツ。是ヲ第一號徵募ト稱ス。總計五千二百
十三人。後チ其三千八百七十人ヲ、警視隊及ヒ
別働第三旅團ニ補充ス。三月、大警視川路利良
ヲシテ、陸軍少將ヲ兼ネシメ、西海ニ差遣シ、別
働第一旅團司令長官ト為ス。五月、再ヒ巡查一
万二千二百十八人ヲ募ル。是ヲ第二號徵募ト稱
ス。乃チ陸軍省ニ付シテ、新撰旅團ヲ編制シ、少

將嘉彰親王ヲ以テ司令長官ト為ス。八月。府縣ノ警察費額ヲ増シテ。九十二万九千二百四十六圓ト為ス。十月。是ヨリ先。西海擾亂ノ際。各府縣假ニ巡查ヲ募リ。警備ニ充ツ。是ニ至リ。令シテ十一月ヲ限リ。悉ク之ヲ解カシム。合計八千三百四十一人ト云フ。十一月。内務省ノ一等大警部以下ヲ廢シ。更ニ正權大警部。中少警部各三等。警部補二等ヲ置キ。正權大警部ヲ奏任ト為ス。

十一年一月。内務省。警察月表ヲ改正シ。製表心得ヲ頒ツ。二月。警視官ノ皇城警衛ヲ罷ム。近衛兵ノ凱旋ヲ以テナリ。又巡查ノ大藏省金庫ヲ警備スルヲ罷メ。東京鎮台兵ヲ以テ之ニ代フ。三月。内務省ノ大警部以下ノ官ヲ廢シ。警視補二等。正權大中少警部。警部補。及ヒ試補ヲ置ク。一等警視補ヲ八等官。二等警視補ヲ九等官ト為シ。並ニ奏任ニ班ス。大警部ヲ十等官ト為シ。以下等ヲ趁テ遞降ス。四月。警視鑿學校ヲ廢シ。又警視本署。防火事務ヲ第一課ニ屬ス。是月。鑿師藥舗ニ令シテ。創痍ノ治療ヲ請ヒ。其跡疑フ可

政談會ノ規則
ヲ立ツ

キ者ハ、警視分署又ハ巡查ニ密告セシム。六月、
傳染病豫防事務ヲ東京府及ヒ警視本署ニ属
シ。其事務ノ權限ヲ定ム。七月、内務省及ヒ府縣
ニ令シ。士民ノ社ヲ結ヒ、衆ヲ集メテ、政体ヲ妄
議シ、民心ヲ煽惑スル者ヲ檢シテ、之ヲ禁止シ。
且ツ其事情ヲ具シテ、内務省ニ申セシム。十二
月ニ至リ、東京府下ニ、演說會ヲ開ク者ハ、豫メ
其旨趣、及ヒ會場日時等ヲ具シ、會主及ヒ會員、
三人以上連署シテ、警視廳ニ申報セシム。且ツ
警察吏ヲシテ、之ヲ臨監セシム。府縣モ亦之ニ

近縣ノ警部ヲ
東京ニ會ス

準ス。因テ東京警視本署、神奈川、群馬、埼玉、千
葉、枋木、茨城、六縣ノ警部ヲ會シテ、警察ノ事ヲ
議ス。以後、隔月相會シ、以テ定例ト為ス。十月、違
式註違ノ贖金ヲ科料ト改メ、罪犯ノ無カナル
者、若クハ科料ヲ出スヲ肯セサル者ハ、拘留ニ
起ス。尋テ小笠原島ノ警察ヲ内務省ニ属シ、駐
在ノ書記官小花作助ヲシテ、其事ヲ行ハシム。
十月、大警視川路利良ヲ歐洲ニ遣シ、警察ノ事
ヲ講究セシム。明年二月ヲ以テ發航ス。
十二年一月、東京警視分署ノ部伍名稱ヲ改メ、警

部ヲ部長ト為シ、警部補、警部試補ヲ副部長ト為シ、一等二等巡查ヲ以テ、伍長ニ充ツ。尋テ巡查ノ員ヲ定メテ、四千一百人ト為シ、鑿務掛ヲ廢シ、更ニ衛生掛ヲ置ク。四月、東京集治監成ル。姑ク警視本署ヲシテ之ヲ管セシム。是月、火災保險事務掛ヲ大藏省ニ置キ、内務警視及ヒ東京府ノ官吏ヲ會シテ、其事ヲ議セシム。五月、警視病院ヲ、淺草猿屋町ニ置ク。是ヨリ先、大臣參議ニ隨身騎兵ヲ賜フ。是ニ至テ、巡查ニ代ヘ、稱シテ警衛巡查ト曰フ。因テ警視本署ニ、警衛掛

警視病院ヲ置ク

ヲ置キ、警部之ヲ指揮シ、稱シテ警衛長ト曰フ。九月、東京府下ニ令シテ、火止石炭油ノ製場ヲ人家稠密ノ地ニ設クルヲ禁シ。又府下ノ湯屋取締規則ヲ定ム。十月、大警視川路利良、疾ヲ以テ佛國ヨリ還リ、尋テ卒ス。乃チ陸軍中將大山巖ヲ以テ、内務大輔大警視ヲ兼ネシム。是月、水上警察所ヲ、東京新船松町ニ移シ、改メテ水上警察署ト稱ス。十二月、伊豆大島ニ警視出張所ヲ設ク。是ヨリ先、司法省奏シテ、大島駐在ノ警察官ヲシテ、懲役三年以下ノ罪ヲ斷シ、五年以

伊豆大島ニ警視出張所ヲ置ク

上十年以下ハ、決テ東京裁判所ニ取ラシメン
ト請フヲ以テナリ。

十三年一月、巡查教習所ヲ警視局ニ設ケ、巡查タ
ラント請フ者ハ、就テ其業ヲ肄ハシム。二月、大
警視大山巖ヲ以テ、陸軍卿ト為シ、權中警視石
井邦猷ヲ以テ、中警視ト為シ、假ニ局務ヲ總理
セシメ、十月ニ至リ、陸軍歩兵大佐樺山資紀ヲ
以テ、兼大警視ト為ス。四月、集會條例ヲ頒ツ、其
要ニ曰ク、衆ヲ集メテ、政治ニ關スルノ事ヲ講
談論議スル者ハ、會ニ先タツ三日、談論ノ事項、

集會條例ヲ頒
ツ

辯士ノ姓名、及ヒ會場日時ヲ具シ、會主會長之
ヲ本管ノ警察署ニ稟シテ、準可ヲ得ヘシ、其結
社ニ係ル者ハ、豫メ社名、社則、會場、及ヒ社員名
簿ヲ警察署ニ呈シテ、批准ヲ請ヘ、但認テ國安
ニ害アリト為ス者ハ、許サス、警察官ハ、會場ニ
臨ミ、其談論スル所、稟告ノ旨ニ違ヒ、或ハ人ヲ
罪ニ誘ヒ、公安ニ害アリト為ス者ハ、散會及ヒ
解社ヲ命シ、仍ホ罰スルニ、禁獄罰金ヲ以テシ、
其情ニ因リ、一年以内、講談論議ヲ為スヲ禁ス。
是月、東京警視分署ニ、衛生巡查ヲ置キ、警部補

警視本署ニ消
防部ヲ置ク

警部試補ニ其長ヲ兼シノ。以テ天行病ヲ豫防
ス。五月、消防本部ヲ警視本署ニ置キ、府下ノ防
火ヲ掌ル。因テ消防掛ヲ廢シ、更ニ消防本部長、
副長、司令長、司令、傳令司、嚮導、伍長ヲ置キ、警視
以下ニ之ヲ兼ネシノ。卒三百五十人ヲ募リ、稱
シテ消防隊ト曰フ。乃チ職制章程、及ヒ防火卒
規則、職務心得、屯所規則ヲ頒チ、其約束賞罰ヲ
定メ、坂本町、錦町、黒船町ノ三所ニ分屯セシム。
尋テ分遣所ヲ、皇居及ヒ青山御所等ノ十一所
ニ設ク。七月、治罪法ヲ頒ツ、語ハ糾治部ニ在リ、

徽毒病院ヲ設
ク

八月、東京警視病院ヲ、芝、淺草ニ、徽毒病院ヲ、本
郷、麴町ニ設ク。九月、司法省ニ令ス、司法警察ノ
事、曩ニ姑ク地方官ニ委ス。自今、漸次ニ檢事ヲ
派シ、事ノ檢事ニ屬スル者ヲ處理セヨ。因テ府
縣ニ令シテ曰ク、司法警察事務ノ宜ヲ量リ、司
法卿ノ命ヲ以テ、府縣警部ニ、臨時檢事補ヲ兼
ネシムルヲ許スト。十月、小笠原島ノ警察事務
ヲ、東京府ニ屬ス。十二月、太政官宮内省ニ巡查
ヲ置キ、以テ門契ヲ檢セシム。
十四年一月、警視廳ヲ復シ、巡查本部、警察署、消防

警視廳ヲ復ス

大正紀要

署、監獄署、之ニ隸ス。其職制ニ曰ク。警視總監、副
總監、警視、警視屬、以上本廳ニ屬シ。警察事務ヲ
總管ス。巡查總長、副總長、方面監督、巡查長、副長、
巡查部長、巡查、以上巡查本部ニ屬シ。警邏、巡察
ノ事ヲ掌ル。警察使、副使、書記、以上警察署ニ屬
シ。警戒、檢察ノ事ヲ掌ル。消防司令長、副長、大
少司令、以上消防署ニ屬シ。消防隊ヲ監督、指揮
シ。火災、消防ノ事ヲ掌ル。典獄、副典獄、書記、看守
長、副長、看守、以上監獄署ニ屬シ。獄事ヲ掌ル。警
視總監ヲ敕任ト為シ。警視、及ヒ方面監督、警察

大正
九年
警察
官制
ニ
關
スル
事
ニ
關
スル
事
ニ
關
スル
事

使、消防司令副長ヲ奏任ト為シ。自餘ヲ判任ト
為ス。但巡查看守ハ等外ニ在リ。判任以下、等級
ヲ設ケス。班次、月俸ノ多寡ニ從フ。乃チ大警視
樺山資紀ヲ以テ、警視總監ト為シ。内務省ノ警
視局ヲ改メテ、警保局ト稱ス。二月、伊豆七島戸
長ヲシテ、假ニ警察事務ヲ行ハシム。是ヨリ先
警察出張所ヲ大島ニ置キ、以テ七島ヲ管セシ
ム。然ルニ絶海ノ孤島、風俗樸素、復タ警吏ノ查
察ヲ要セサルヲ以テナリ。是月、府縣警察費ノ
國庫ヨリ下付ス可キ比準ヲ定メ、東京ハ十分

警察費ヲ國庫
ヨリ下付ス可キ
比準ヲ定ム

大正九年

憲兵ヲ置ク

消防隊ヲ解ク

ノ六。自餘ハ十分ノ三ヲ給ス。但巡查ヲ除クノ外。官吏ノ俸金。及ヒ廳費ハ。舊ニ仍テ國庫支給ト為ス。三月。憲兵ヲ設ケ。先ツ東京府下ニ配布シ。條例ヲ頒ツ。事ハ軍律部ニ在リ。又門監長。門監。門部ヲ宮内省ニ置キ。皇居諸門ニ直シ。以テ門契ヲ監査ス。目テ守門巡查ヲ撤ス。其近衛兵ノ守衛ハ舊ニ仍ル。四月。警視廳。東京府下巡查屯所ノ布置ヲ改メ。併セテ巡查人員表ヲ上ル。總テ五方面。三十六屯所。三百三十派出所。巡查三千五百五人ト為ス。六月。警視廳。消防卒二中

消防科ヲ宮内省ニ置ク

隊ヲ解ク。廳費不足ニ由ルナリ。是月。米國駐劄全權公使吉田清成。東京荐リニ火アルヲ聞キ。其勃^{ホト}斯^ト東京府ニ行フ所ノ。火災豫防法則ヲ上ル。東京府下ノ防火線路ヲ畫シ。屋製制限ヲ定ムル。蓋シ此ニ取ルト云フ。七月。皇居及ヒ青山御所ノ防火費ヲ増シテ。歳ニ一万二千五百圓ト為ス。警視消防手ヲ廢スルニ由ル。明年九月ニ至リ。宮内省ニ消防科ヲ設ケ。消防長。嚮導。伍長ヲ置キ。官等服制。及ヒ旌旗等ノ制ヲ定メ。專ラ皇居防火ノ事ヲ掌ル。八月。石油取締規則ヲ頒

ナ。華氏驗温器百二十度以上ノ熱ニ至リ。火ヲ引ク者ニ非サレハ。點燈ニ用フルヲ禁ス。十一月。府縣ニ警部長ヲ置キ。陞セテ奏任ト為シ。事ヲ知事令ニ承ケ。警察事務ヲ總理シ。重事ハ直ニ内務卿ノ命ヲ承ケ。或ハ具状スルヲ許ス。十二月令ス。賣淫ノ罪。刑法ニ載スト雖モ。姑ク舊制ニ仍リ。警視及ヒ地方官。之ヲ戒飭懲罰ス可シト。尋テ刑法附則ヲ頒ツ。其監視ノ事。專ラ警察官吏ノ知ル所タリ。要ニ曰ク。監視ハ。犯人刑滿ル後。警察官吏。仍ホ其行止ヲ監ス。其法。監視票

府縣ニ警部長
ヲ置ク

ヲ付シ。一月兩次。票ヲ佩テ警察署ニ詣リ。檢印ヲ受シム。假出獄ヲ得テ。監視ヲ命スル亦同シ。又令ス。違警罪ヲ判スルハ。治安裁判所ニ屬スト雖モ。姑ク舊ニ仍リ。府縣警察署。及ヒ分署ニ委スト。是月。府縣警部以下ノ等級ヲ廢シ。警部。警部補。巡查ノ三級ニ分チ。班次。俸ノ多少ニ從フ。

十五年一月。警察月報。及ヒ記載例則ヲ改定ス。治罪法ヲ行フヲ以テナリ。二月。府縣ニ令シテ。管内全圖ニ。警察署。分署。屯所。交番所。派出所ノ位

人カ車規則ヲ
頒ツ

置及ヒ所管ノ區畫ヲ符記シテ内務省ニ上リ。自後分合アル毎ニ之ヲ申告セシム。三月警視廳火災申報表ヲ製シ。豫メ區戸長ニ分テ以テ毎時申稟ニ便ス。四月東京府人カ車取締規則ヲ定ム。其法地ヲ畫シ。組合ヲ立テ頭取ヲ置キ。組合名簿ヲ設ケ。名下ニ押印シ。水牌ニ住趾姓名及ヒ賃銀ヲ記シ。頭取ノ印ヲ烙シテ。車ニ釘セシメ。以テ盤點ニ便シ。其奸猾ヲ防ク。十二月。巡查ニ帶劔ヲ聽ルス。巡查ノ職人民ヲ保安シテ。犯法ナカラシムルニ在リ。故ニ一ノ護身梃

巡查ニ佩劔ヲ
聽ルス

ヲ執ルノミ。然ルニ奸匪ノ徒或ハ兇器ヲ懷ニシ。捕ヲ拒クニ方リ。屢巡查ヲ殺傷シ。毒惡ヲ極ム。因テ此令アリ。

按スルニ。全國ノ警察署一千五百二十六所。巡查二万二千百七十三人。經費四百五十五万九千三百八十圓。其署費及ヒ官吏ノ俸給ハ與カラズ。是レ本年六月ノ查覈ニ係ル。警察費ノ制タル。十分ヲ以テ率ト為シ。四分ヲ民ニ科シ。凡ソ百九十五万六千八百五十圓ヲ徵ス。之ヲ天下人口ニ比例スルニ。一人僅

二五錢強ニ過キス。然リ而シテ。日夜俛焉。各
 其業ニ安スルヲ得ル者ハ。實ニ釐吏ノ力ナ
 リ。試ニ十四年ノ成績ヲ檢スルニ。犯人ヲ緝
 捕スル十四万八千百六十七。弃児ヲ収ムル
 三百五十。其他溺者ヲ將死ニ救ヒ。放火ヲ未
 燃ニ防ク如キ。勝テ數フ可ラス。嗚呼。報少シ
 テ效多キ者ハ。其レ特ニ警吏ニ在ルカ。